

令和7年度 主な事業の報告

※青少年もがみ第42号掲載以降

1 “いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動標語
最上地区優秀作品選考会

【9月12日（金）最上総合支庁】

最上地区の全小・中学校等から、合わせて3,461点の応募がありました。選考の結果、次の作品が最優秀・優秀に選ばれました。

【最優秀】

おもしろい？あなたはそうでもわたしはちがう
真室川町立真室川北部小学校 2年 佐藤 蓮奈さん

【優秀】

打つ文字と 放つ言葉は あなたの鏡
金山町立金山小学校 4年 柴田 楓歌さん
SNS 浅い発言 深い傷
新庄市立日新中学校 1年 阿部 友亜さん
消しゴムで 消せないものは そのコトバ
真室川町立真室川中学校 3年 阿部剣士郎さん

2 最上地区青少年育成推進員研修会

【9月20日（土）最上町中央公民館・旧有路家住宅】

青少年育成推進員の一層の資質の向上や相互の交流を深めるため、研修会を行いました。

◇「青少年の現状と今年度の青少年育成活動について」の報告

◇各市町村の青少年育成活動の紹介と情報交換

◇講話

講話題 「郷土愛を育む活動と青少年の健全育成」
講 師 最上町文化財保護審議会会長 伊藤 和美 氏
昔語り とんと昔この会（最上町）

地域の文化財は地域住民のアイデンティティや誇りの源であり、その学習は地域への理解と愛着を深め、青少年の健全育成の重要な機会であるという視点からお話をいただきました。また、後段では、地元の昔話の一つである「若返りの水」を語り部の方より語っていただきました。

3 山形県青少年健全育成県民大会

【10月26日（日）荘銀タクト鶴岡】

【表彰】

◇青少年育成功労者及び団体

◇優秀標語・ポスター作者

“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動の優秀標語作者の表彰では、真室川町立真室川北部小学校2年 佐藤蓮奈さんが表彰されました。

【いじめ・非行防止セミナー】

◇第64回山形県少年の主張大会最優秀受賞者の発表

演題「命の叫びを伝える」

鶴岡市立鶴岡第二中学校 3年 石塚 桃心さん

◇事例発表 「はぐろ大家族会議の今」

鶴岡市青少年育成市民会議羽黒地区会議会長

勝木 正人 氏

◇講演 演題「レジリエンスを高めよう」

講師 山形県公認心理士・臨床心理士協会会長

伊藤 洋子 氏

スクールカウンセラーも務める氏の現場から感じている思いを心理学を背景に分析・提案した、こどもへの応援演説で、レジリエンス（逆境やストレスから立ち直る心の回復力）を高めることの大切さや方法について教えていただきました。



4 令和7年度最上地区青少年育成懇談会

【12月14日（日）雪の里情報館】

最上地域の将来を担う青少年の健全育成を推進するため、地区内の高校生と青少年育成関係者が一緒に、「これからの社会をたくましく生きていくために」をテーマに、4グループに分かれてワークショップ型で懇談しました。当日は、各高校代表生徒と市町村ボランティアサークルの高校生、青少年育成団体代表者等58名に参加いただきました。

最初に、少年サポートセンター最北 井上聖子 上席少年補導専門官より、青少年を取り巻く環境と社会の課題についてお話しいただき、今の社会が抱える問題を参加者全員で共有しました。その後のグループ懇談では、これからどんな地域社会を作っていきたいかや、自分自身のあるべき姿や役割、必要な身に着けておきたい資質・能力、スキルなどについての意見交換を通して、将来の生き方や地域づくりについて考えました。また、後段では、青少年育成推進員など青少年育成関係者が高校生にアドバイスしながらグループごとに地域を明るく・元気にするメッセージ（標語）をみんなで作成しました。最後の全体会では、各グループで作成した標語を互いに発表し合うとともに、最上地区青少年育成連絡協議会 小松功 会長より、全体講評をいただきました。

【高校生が作成したメッセージ】

◇いくつになっても 明るく笑顔で 感謝を忘れず

～ Try (挑戦) & Error (成長) ～

◇挨拶は無料でできる魔法だよ

◇若者の元気も 日本一安心できる地域づくりの1ピースに ～年代の幅を超えた人とのつながりを作っていこう～

◇誰も取りこぼさない 声をついつい かけちゃう かけられちゃう



編集後記

「地域づくりは人づくり」といわれます。時代の変化に対応し健康で生き生きとしている大人は、こどもにとって魅力的なモデルになると感じました。青少年の健全育成にかかわる皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

青少年もがみ

第43号 令和8年2月1日

一発 行一

最上地区青少年育成連絡協議会



とざわげんきまる祭 「ハロウィン仮装体験コーナー」の様子（戸沢村）

「青少年」が選ぶ未来のために「大人」ができることは何か

真室川町青少年育成町民会議会長 小 松 功



青少年という時期は、高校生から大学生に、または就職して社会人になる人生の中で重要な転機であり「自分自身の未来」に向けて、たくさんの希望・悩み・不安を抱えながら「選択と決断」をしている時期だと思います。しかも、18歳になれば選挙権も与えられて「日本の未来や地域社会」についても「選択・決断」をすることになります。

自分自身のことを考えるだけでも精いっぱいの中、日本のことや地域のことまで考えなくてはいけないとても大変な思いをしていることだと思います。

今、この時の「選択と決断」が、どれだけ未来を左右するものなのかについて、こどもたちが想像力を働かせることには限界があるでしょう。私自身、この時のこの決断が全てだと思っていたが、この後も大学卒業の時、結婚の時など転機は何度も訪れました。その時々「選択と決断」をどのように成し得たかは定かではありませんが、それを経験して過ごしてきました。

人生初の転機を迎えた青少年は何を基準に未来を選ぶのか、その選ぶ未来のために親でもない先生でもない私たち地域の大人は何ができるのか、または何をしなくてはならないのかを考えながら活動を進めていきたいと考えます。

各地域における青少年育成事業・青少年の活動の様子

新庄市



「住みよさ」をかたちに 新庄市

新庄市青少年育成市民会議の活動

○友好都市・高萩市との児童交流事業

次代を担うこどもたちの人間性や社会性の育成を趣旨として、本市の友好都市である茨城県高萩市との児童交流を行っています。7月に本市児童が高萩市を訪問し、様々な体験活動を通して高萩市の歴史や文化、自然風土などを学習しました。8月には高萩市の児童が本市を訪れ、戸沢家墓所などの見学を通して本市の歴史文化を学ぶとともに、本市児童との交流も行いました。



○チャレンジ体験パーク

こどもたちが楽しいと感じる活動を通して豊かな心が育まれ主体的な学びの機会となるよう、小学生を対象とした体験事業を実施しました。今年度は、本市推進員会の水田での田植え・稲刈り、4種の地元産お米を使ったおにぎり作りと食べ比べ体験を行いました。おにぎり作り体験に参加した親子からは「何気なく食べているお米にも、いろんな種類や違いがあると知って、ご飯を食べるのが楽しみになった。」などの感想がありました。

今後も継続性をもった取組みを意識し、少年・青年・成人と地域を支える人材育成に努めて参ります。

最上町

魅力をつなぐ
笑顔一杯あふれるまち

最上町青少年活動について

令和7年度の高校生ボランティアサークルつくし会は、1年生2名、2年生2名、3年生3名の計7名の、少数ではありますが連携して何事にも積極的に活動を行っています。

年間8回前後の活動を行っており、幼稚園から高齢者まで幅広い年代層での活動、または地域の行事にも参加しています。主だった活動としては、JRの代行バス利用者が利用している最上駅の清掃、夏休み期間にNPO団体が開催している学童教室のお手伝い、24時間テレビの募金活動、大堀地区で毎年行っている「大堀まつり」では、地区内を練り歩く神輿担ぎなど行いました。クリスマス会は、会場の準備やブースの企画・運営などもつくし会のメンバーで行っております。

今年度のつくし会は少人数ではありますが、人のため、他人のことを第一に考え、同じ目標に向かって一人ひとりが行動できた1年でした。



金山町



四季 奏でるまち。金山

金山町青少年育成活動について

令和7年7月23日に「金山町青少年健全育成町民大会～みんなでラジオ体操会～」を開催しました。金山町では、夏休み期間に町内放送にて毎朝ラジオ体操が放送されていることから、ラジオ体操を学ぶことをきっかけに、地域や家庭内でのラジオ体操の実施を促し、こどもたちの夏休み期間の生活リズム（早寝早起き）を整えることや、朝からの親子または地域の方々との交流につなげることを目的にした講演会を行いました。講師に、NPO法人全国ラジオ体操連盟より、岡本美佳さん、館野伶奈さんをお招きし、ご講演をいただきました。

講演では、ラジオ体操第一をメインに、ラジオ体操の正しい動きや一つひとつの動きに込められた効果について分かりやすく説明をいただき、参加者も一緒に動きながら実施しました。夏休み期間が始まる前に実施したことから、親子での参加が多くありました。

今後も、町民の皆さんが気軽に参加し、こどもと地域住民の交流の促進や、地域でこどもを育てることの大切さを認識できるような町民大会の開催を続けていきたいと思ひます。



舟形町



縄文の女神と若鮎の里

舟形町の青少年育成活動

令和7年度は、青少年健全育成に関する様々な取り組みを実施することができました。

舟形町では、各町内会で地域の青少年と一緒に花苗を植える「花いっぱい運動」やこどもたちの登校時に行う「おはよう運動」、こどもたち自ら呼び掛けを行う「メディアコントロール週間」等の活動を行いました。

また、高校生ボランティア「ふなっ子」は、1年生10名、2年生18名、3年生4名の計32名で活動しました。主な活動として、保育園訪問や舟形インターと舟形駅清掃、ふなっ子が中心となって映画上映会を開催するなど、様々な活動を実施しました。

特に、舟形町町制施行70周年記念事業映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」舟形町上映会では、ふなっ子が映画の宣伝や、開会式で手話を交えて挨拶するなど積極的に活動しました。会員達は、自分達で様々なボランティア活動を行い、大変勉強になったと感想を述べていました。

これからも、青少年の活動の支援を続けていきます。



私の宝物(青少年育成推進員の活動及び所感)



宝物は人と人との繋がり

新庄市青少年育成推進員 阿部 秀幸

2年ぶりの高萩市との児童交流は、ウォーターアスレチックが加わって更に楽しいものになりました。こどもたちが手作りの名刺交換をしている時、「来年も来れるかなあ、面白かったなあ」と考えていました。

高校生の頃からボランティア活動に参加し新庄市主催の事業に関わる様になり、その後青年団活動や消防団活動に参加し、仕事よりも傾倒して行きました。本業に腰を入れる様になったのは、ボランティア活動を始めてから10年程たっていました。

興味を持って始め、色々な事をやってくるうちに発見や学びがあり、関わった皆様には立場や世代を越えて御指導御鞭撻を頂き、沢山の御協力を得て最後には笑顔で終わる、と云うやり方で農業でも生産組合や利用組合を運営する様になり、計画立案から実行、さらには、次年度への期待や計画をするようになりました。

小学校や中学校に行き、畑の先生や田圃の先生をやるようになり、いろんな人を巻き込んで楽しい事をやりました。本業のノウハウがあるのでそれっぽい事ができました。

全てはボランティアを始めた事からです。人と人の繋がりが自分だけの考えよりも広がりをもち未来へも繋がる。まだまだ面白い事ばかりです。



あいさつ運動を継続して

最上町青少年育成推進員 遊佐 忠孝

最上町では、朝晩のあいさつ運動を継続しております。偶数日は夕方6時30分、奇数日は朝6時30分から7時過ぎ迄、町内のJR陸羽東線駅とコンビニエンスストア前を会場に行いました。今年も昨年の豪雨災害により、陸羽東線が未だ再開しておらず、代行バスの通勤・通学時と新庄東高の通学バスの発着時にあいさつ運動を実施しました。ポケットティッシュを配布しながらのあいさつも定着し、高校生・一般の方共に、皆さん元気にあいさつを交わして頂いております。「継続は力なり」と申しますが、毎回行って良かった、と実感しております。昨今、青少年の健全育成には先ずあいさつからと聞いたことがあります。来年度以降も最上町では継続して行ければ、と考えております。加えて私のお願いを込めて、陸羽東線の早期再開を望んで止みません。通勤・通学の足であると同時に、高校生や中学生にとって対面で会話が出来る電車の中は、楽しい時間だと思います。陸羽東線の復旧工事が始まったと言う情報も入っております。少子高齢化が口癖の様に言われていますが、日常生活の不便さが、青少年と高齢者にしわ寄せされないように、一日も早い再開を望んでおります。



こどもは地域の宝物

金山町青少年育成推進員 佐藤 俊一

私が青少年育成推進員の活動に携わり、今年で4年目になります。私には4人のこどもがいますが、活動をとおして接する全てのこどもたちが、かけがえのない宝物だと心から感じています。

私は、こどもたちの成長を支える上で、親だけではなく地域全体で「見守る」ことが大切だと思っています。過保護になるのではなく、その子の個性を尊重し、時には適切な距離で見守り、叱り、信頼を寄せることが、自立心を育む土台になると思ひます。

しかし、現代の育成活動には新たな課題があります。その最たるものがスマートフォンの存在です。利便性と危険性が同居するこのツールと、こどもたちがどう向き合っていくか、単に制限するのではなく、親子と地域が一体となって、正しい使い方やネット社会のルールを学んでいくことが必要だと考えています。

私自身、4人の父親として、日々の生活の中で試行錯誤を続けています。家庭での温かい対話と、地域での体験活動、そしてデジタルツールとの健全な付き合い方を柱として、こどもたちが自信を持って未来を切り開いていけるよう、これからも皆さんと協力していきたいと思っています。



私の宝物

舟形町青少年育成推進員 佐藤 慎也

私の宝物は祖父からの言葉で「勤労」の二文字です。明治生まれの祖父は戦後の何もかも不足している中で家族を養う為に大変なご苦労をしたそうです。その時代は周りの皆が同じ様な境遇で、誰もが家族の為、一生懸命に働いたそうです。今日の私達が平和で不自由のない生活が出来るのも、先代の皆様方の「勤労」のおかげです。

働くという意味では勤労と労働は類似語ですが、内容は全く違います。労働は権利と対価が付随し個人的な働き方ですが、勤労は対価があるものとなないものが存在しますし、権利は基本的にはありません。ボランティア活動や福祉活動というのも勤労であると思ひます。働く事が自分の為、相手の為、地域の為、社会の為になる働き方なので労働とは全く違います。

「時代がどんなに変化しても自分だけ良かったら良いなんて考えは間違いだし、働かなくても暮らせる世の中なんてのもおかしい、世の中のためになる様に働きなさい。」と祖父から言われた事を大切な宝物としております。

青少年の皆様と一緒に活動する中で、自分自身が気づく事や教えられる事が多々あります。これからも活動を通して共に成長していければ幸いと考えております。

私の宝物（青少年育成推進員の活動及び所感）



宝物は人と人との繋がり

新庄市青少年育成推進員 阿部 秀幸

2年ぶりの高萩市との児童交流は、ウォーターアスレチックが加わって更に楽しいものになりました。こどもたちが手作りの名刺交換をしている時、「来年も来れるかなあ、面白かったなあ」と考えていました。

高校生の頃からボランティア活動に参加し新庄市主催の事業に関わる様になり、その後青年団活動や消防団活動に参加し、仕事よりも傾倒して行きました。本業に腰を入れる様になったのは、ボランティア活動を始めてから10年程たっていました。

興味を持って始め、色々な事をやってくうちに発見や学びがあり、関わった皆様には立場や世代を越えて御指導御鞭撻を頂き、沢山の御協力を得て最後には笑顔で終わる、と云うやり方で農業でも生産組合や利用組合を運営する様になり、計画立案から実行、さらには、次年度への期待や計画をするようになりました。

小学校や中学校に行き、畑の先生や田圃の先生をやるようになり、いろんな人を巻き込んで楽しい事をやりました。本業のノウハウがあるのでそれっぽい事ができました。

全てはボランティアを始めた事からです。人と人の繋がりが自分だけの考えよりも広がりをもち未来へも繋がる。まだまだ面白い事ばかりです。



あいさつ運動を継続して

最上町青少年育成推進員 遊佐 忠孝

最上町では、朝晩のあいさつ運動を継続しております。偶数日は夕方6時30分、奇数日は朝6時30分から7時過ぎ迄、町内のJR陸羽東線駅とコンビニエンスストア前を会場に行いました。今年も昨年の豪雨災害により、陸羽東線が未だ再開しておらず、代行バスの通勤・通学時と新庄東高の通学バスの発着時にあいさつ運動を実施しました。ポケットティッシュを配布しながらのあいさつも定着し、高校生・一般の方共に、皆さん元気にあいさつを交わして頂いております。「継続は力なり」と申しますが、毎回行って良かった、と実感しております。昨今、青少年の健全育成には先ずあいさつからと聞いたことがあります。来年度以降も最上町では継続して行ければ、と考えております。加えて私のお願いを込めて、陸羽東線の早期再開を望んで止みません。通勤・通学の足であると同時に、高校生や中学生にとって対面で会話ができる電車の中は、楽しい時間だと思います。陸羽東線の復旧工事が始まったと言う情報も入っております。少子高齢化が口癖の様に言われていますが、日常生活の不便さが、青少年と高齢者にしわ寄せされないように、一日も早い再開を望んでおります。



こどもは地域の宝物

金山町青少年育成推進員 佐藤 俊一

私が青少年育成推進員の活動に携わり、今年で4年目になります。私には4人のこどもがいますが、活動をとおして接する全てのこどもたちが、かけがえのない宝物だと心から感じています。

私は、こどもたちの成長を支える上で、親だけではなく地域全体で「見守る」ことが大切だと思っています。過保護になるのではなく、その子の個性を尊重し、時には適切な距離で見守り、叱り、信頼を寄せることが、自立心を育む土台になると思います。

しかし、現代の育成活動には新たな課題があります。その最たるものがスマートフォンの存在です。利便性と危険性が同居するこのツールと、こどもたちがどう向き合っていくか、単に制限するのではなく、親子と地域が一体となって、正しい使い方やネット社会のルールを学んでいくことが必要だと考えています。

私自身、4人の父親として、日々の生活の中で試行錯誤を続けています。家庭での温かい対話と、地域での体験活動、そしてデジタルツールとの健全な付き合い方を柱として、こどもたちが自信を持って未来を切り開いていけるよう、これからも皆さんと協力していきたいと思っています。



私の宝物

舟形町青少年育成推進員 佐藤 慎也

私の宝物は祖父からの言葉で「勤労」の二文字です。明治生まれの祖父は戦後の何もかも不足している中で家族を養う為に大変なご苦労をしたそうです。その時代は周りの皆が同じ様な境遇で、誰もが家族の為、一生懸命に働いたそうです。今日の私達が平和で不自由のない生活が出来るのも、先代の皆様方の「勤労」のおかげです。

働くという意味では勤労と労働は類似語ですが、内容は全く違います。労働は権利と対価が付随し個人的な働き方ですが、勤労は対価があるものとないものが存在しますし、権利は基本的にはありません。ボランティア活動や福祉活動というのも勤労であると思います。働く事が自分の為、相手の為、地域の為、社会の為になる働き方なので労働とは全く違います。

「時代がどんなに変化しても自分だけ良かったら良いなんて考えは間違いだし、働かなくても暮らせる世の中なんてのもおかしい、世の中のためになる様に働きなさい。」と祖父から言われた事を大切な宝物としております。

青少年の皆様と一緒に活動する中で、自分自身が気づく事や教えられる事が多々あります。これからも活動を通して共に成長していければ幸いと考えております。

各地域における青少年育成事業・青少年の活動の様子

真室川町



生きがいを感じ
幸せを感じるまち 真室川

真室川町の青少年育成活動

真室川町では6月から11月までの期間、青少年育成町民会議の関係者や地元の方々の協力の下、真室川・釜淵・大滝・及位の町内4駅で「街頭指導」を毎月1回実施しました。今年度は計6回、延べ99人の方に参加していただき、あいさつ運動と清掃活動をおこないました。高校生をはじめとする電車の利用者は年々、減少傾向にありますが、今後も町の玄関口である駅の環境を整えながら、青少年を見守る活動を継続していきたいと考えています。

また、9月6日には高校生ボランティアサークルのホップステップが主体となり、新イベントの「まわっくわくフェスティバル」を開催しました。イベントの企画立案から準備、当日の運営まで高ボラメンバーが行い、青少年育成推進員は運営補助を行いました。当日はこどもから大人まで多くの方々にご来場いただき、大盛況のうちに終わることができました。

今後も街頭指導や各イベントを通じて、次世代を担う青少年の活動を地域住民と連携し、継続して支援していきたいと考えています。



鮭川村



多世代と自然が織りなす
“うるわしの里”

青少年育成事業の取組み

鮭川村青少年育成推進員会は今年度、村内小・中学校昇降口でのあいさつ運動を実施した。村内での巡回指導を継続して行っているが、より多くのこどもたちに推進員会の活動を知ってもらうこと、安心・安全に暮らせる地域づくりに寄与することを目的に今年度初めて実施した。

5月23日（金）に鮭川小学校、6月6日（金）に鮭川中学校で実施し、登校してきた児童・生徒にいじめ防止標語が印刷されたポケットティッシュを配布しながら、挨拶を交わした。推進員が挨拶をすると、こどもたちから「おはようございます！」といった元気な返事が返ってきた。明るく元気な挨拶を聴いて、参加した推進員はこどもたちがまっすぐに成長していること、家庭や地域で安心感を得ながら穏やかに生活していることに安堵し、同時にこれからも安心・安全な地域づくりをしていくことを再認識した、有意義な活動となった。



大蔵村



おかえり、なりわい灯す
きよなる里

大蔵村の青少年育成活動

大蔵村青少年育成推進員会を主として開催する「おおくら葉山塾」が、今年度も7月26日～27日にかけて開催された。平成13年の発足から数えて24年目を迎える本事業は地域のこどもたちの心身を育む貴重な体験の場として定着している。

活動の柱となったのは、自然と共生する術を学ぶプログラムである。初日はテント設営から始まり、清流での川遊びなどをして楽しんだ。夜には焚火を囲んで語り合い、満天の星空を観察するなど、通常開催ならではの濃密な時間を過ごした。2日目に行われた「山野探検」では、村の高校生ボランティア「ぎゃらくと」のOBが講師を務めた。地域の自然を知り尽くした先輩の指導のもと、村の豊かな植生や地形を肌で感じる事ができた。

その後、活動の思い出を納めるフォトフレームを作成し、夏の風物詩である流しそうめんを行い、全行程を締めくくった。

自然の中での不自由さを楽しみ、仲間と成し遂げた数々の体験は、こどもたちの自立心と社会性を養う貴重な機会となった。24年にわたり受け継がれてきた本事業は、地域の絆を次世代へとつなぐ重要な役割を担っている。今後もこうした体験を通じ、村の未来を担うこどもたちの健やかな成長を支援していく。



戸沢村



最上川・笑顔・いきいき
夢あふれる故郷（ふるさと） 戸沢村

戸沢村の活動状況について

今年は村制70周年ということもあり、村全体でイベントの多い一年でした。

その中でも、今年も青少年健全育成村民フォーラムを「とざわげんきまる祭」として開催しました。消防団や社会福祉協議会による防災や福祉の体験ブース、PTAの皆さんが企画した縁日体験、中高ボランティアの出店、ハロウィン仮装フォトブースなど幅広い企画が展開されました。参加者も昨年以上の人数となり、70周年にふさわしい事業となりました。

また、神奈川県中井町との児童交流では、戸沢学園6年生7名が夏に町を訪問し、様々な体験を通して交流を図ってきました。今年は数年ぶりに互いの家にホームステイすることが叶い、家族ぐるみで交流を深めることができました。35年続いている歴史ある事業なので、可能な限り継続していきたいと考えています。

